

寅さん歩 その 19

バーチャルウォークで 日光道中を歩くー3



平野 武宏

バーチャルウォーク中山道六十九次（東下り）で江戸・日本橋へ戻った寅次郎、同じバーチャル記録帖にあるバーチャルウォーク日光道中二十一次で日光神橋（写真右上）を目指して、江戸・日本橋を出立しました。歩く進度はお散歩程度になりましたが、バーチャル記録帖の1マス2kmを塗りつぶしながら日光道中を楽しみます。

日光道中とは江戸時代の正式な呼び方で現在の日光街道です。徳川家康の廟所 日光東照宮が建てられ、その参詣の道として賑わいました。宇都宮宿までは奥州道中（奥州街道）と同じ道です。

寅次郎のバーチャルウォーク日光道中は2回目で1回目は2020年11月～12月に歩き、寅さん歩348～351東京の博物館めぐりの中で経過報告のみをしています。今回は各宿場を紹介しながら歩きます。街道歩き委員会 内田 晃著「40代からの街道歩き 日光街道編」（集英社/三省堂書店）、五街道ウォーク・八木牧夫著「日光街道 奥州街道」（山と溪谷社）を参考にしました。写真は無料画像を使用しています。

前は古河宿から石橋宿まで歩きました。今回は雀宮宿から日光道中最終の宿場 鉢石宿まで歩き、更に日光東照宮の入口の神橋（写真上右）から日光東照宮に参拝します。

[雀宮宿] 栃木県宇都宮市雀の宮四丁目

最寄駅 JR東北本線 雀宮駅

2024年8月19日 雀宮（すずめのみや）宿（日本橋から100km）に到着しました。写真下左は「雀宮神社」です。平安時代に陸奥へ赴任途中の藤原実方の妻がこの地で病死。その後、陸奥で亡くなった実方の霊魂も雀となり、この地に飛来、二人を祀ったのが雀宮神社の始まりで雀宮は地名にもなりました。主祭神が皇族のため1713年（正徳3年）に東山天皇から金文字の「雀宮」と書かれた勅額が下賜されました。

勅額を社頭に掲げたため、将軍家をはじめ諸大名は下馬して参拝したと伝わります。雀宮神社の近くには本陣、脇本陣があったそうです。また神社は宇都宮城の南方を守護していました。



写真上右は雀宮周辺で作られた「かんびょう」です。夕顔の皮をむくように細長く削って乾燥させたもので、現在でも栃木県のかんびょうは国産かんびょうの9割以上を占める名産品です。

[宇都宮宿] 栃木県宇都宮市伝馬町三丁目

最寄駅 JR東北新幹線・JR東北本線 宇都宮駅、
東武宇都宮線 東武宇都宮駅

2024年8月26日宇都宮宿（日本橋から106km）に到着しました。宇都宮は二荒山神社（写真下右）の門前町として栄え、下野国「一の宮」や奥州攻めの源氏勢が戦勝祈願した「討つの宮」を地名の由来にしているとのことです。その後、宇都宮藩の城下町として発展し、主要街道の要衝、そして鬼怒川の舟運によって江戸と結ばれ、日光道中一番の賑わいでした。



宇都宮家は豊臣秀吉の怒りに触れて所領を没収され、お家断絶。徳川の世になると宇都宮城（写真上左）は譜代の家臣が藩主を勤め、将軍の日光社参の際には宿城となりました。幕末には官軍（新政府軍）に与したため、土方歳三率いる旧幕府軍の攻撃により炎上して落城しました。甲州道中（甲州街道）は宇都宮宿から北上しますが、日光道中（日光街道）を進みます。

[徳次郎宿] 栃木県宇都宮市徳次郎町

最寄駅 JR線 宇都宮駅西口よりバス利用

2024年9月3日徳次郎（とくじら）宿（日本橋から118km）に到着しました。徳次郎宿は下、中、上の三宿で一宿とし、問屋は各宿にあり、月のうち上十日は中徳次郎宿、中十日は上徳次郎宿、下十日は下徳次郎宿が勤めました。徳次郎の名の由来は二説あります。奈良時代に日光を抑えていた久次良（くじら）氏の外の領地と言うことで外久次良（とくじら）と呼ばれた説と宇都宮氏の家臣 新田徳次郎氏がこの地に徳次郎城を築いたことから、徳次郎と書いて読み方が「とくじら」と変化していったという説があります。写真下右は二宮尊徳（金次郎）が造った「宝水用水」です。江戸時代後半に相模国（現在の神奈川県）小田原で生まれた二宮金次郎（二宮尊徳）は小田原藩主から下野国桜町領（現在の真岡市）の財政再建を任せられ、その後は徳次郎や高台の宝木地区で稲作ができるよう開墾・用水事業を行いし農村再興に貢献したそうです。



[大沢宿] 栃木県今市市大沢町

最寄駅 JR日光線 下野大沢駅

2024年9月6日大沢宿（日本橋から126km）に到着しました。

写真下左は日光参詣の際に将軍家が宿泊所として使った「大沢御殿跡」です。第三代将軍徳川家光、第四代将軍徳川家綱が使用しましたが、家綱以降は使用されず廃却されました。大沢宿周辺には日光名物の「日光杉並木」（写真下右）が残されています。



[今市宿] 栃木県日光市今市

最寄駅 JR日光線 今市駅、東部日光線 下今市駅

2024年9月9日今市（いまいち）宿（日本橋から134m）に到着しました。今市の元々の名は「今村」でしたが、宿が設けられると、よそから人々に移り住み、市が立つようになり、「今市」という名になったと云われています。今市宿は京都の朝廷から東照宮へのささげものを使いが運んだ道の「日光例幣史道（壬生道）」、会津西街道の追分を従え、六斎市が立ち賑わいました。写真下左は日光名物の「日光杉並木」、写真下右は平安時代に弘法大師（空海）が創建した「瀧尾神社」です。二荒山神社、本宮神社とともに日光三社のひとつで、現在は二荒山神社の別宮です。



[鉢石宿] 栃木県日光市鉢石町

最寄駅 JR日光線 日光駅、東武日光線 東武日光駅

2024年9月9日日光道中の最終宿場の鉢石（はついし）宿（日本橋から142km）に到着しました。写真下左の「鉢石」という石（鉄鉢を伏せたような石）があり、日光を開いた勝道上人ゆかりの名石と伝わり、宿場名となっています。

2月～3月にかけて「鉢石宿のおひなさま」のイベントが開催されています（写真下右）。



これにて日光道中2度目の完歩です。今回は42日間を要し、1日平均は3.4kmの旅でした。4年前の旅では1日平均は約4kmで2021年、2023年と2度の腹部の手術を行った81歳の寅次郎の1日の歩行距離は落ちています。

でも歩き続けることが大事です。「歩かなければ歩けなくなる そして寝たきりになる。誰にでもいつかは来る寝たきりになる時を遅らせること」です。

また「歩くことは高齢者の認知症予防に効果がある」とのデータがあります。

1日30分、週3回程度から無理なく歩くことを始め、続けましょう。

バーチャルウォークはその励みになりますよ。HPの「YR・四季の道」参照ください。

さあ、これからは神橋から日光東照宮を訪問します。日光東照宮は中学時代の修学旅行、2005年の日光ツアーマーチで訪れていますが、いずれも雨だった記憶があります。今回は晴天でした。

[日光 神橋・東照宮] 栃木県日光市

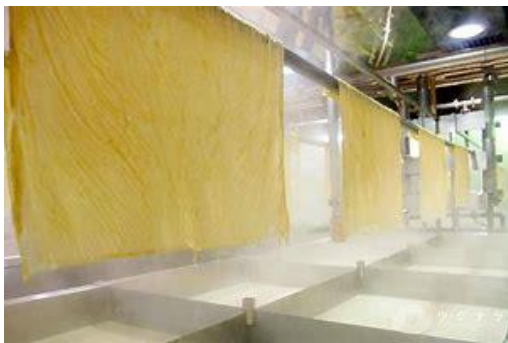
最寄駅 JR線・東武線 日光駅

2024年9月9日日光 神橋(日本橋から144km)(写真下左)に到着しました。神橋(写真下左)は大谷(だいや)川に架かる朱塗りの橋で世界遺産「日光の社寺」を構成する文化財の一つで、日光の社寺の入口にあります。現在の橋は1904年(明治37年)の竣工です。写真下右は日光東照宮陽明門で一日中見ていても飽きないので「日暮らしの門」とも呼ばれます。



奈良時代の僧、勝道(しょうとう)上人が男体山を開き、霊場としたのが日光の始まりです。男体山の元の呼び名は二荒山(ふたらさん)で「ふたら」を「ニコウ」と詠み、「日光」という字をあてたとされたのが日光の名の由来です。「ふたら」とは観音菩薩が住む地で仏教の言葉とのことです。

日光の名物はたくさんありますが、「ゆば」は寅次郎が大好きな名物です。大豆を煮て豆乳を作るとき、表面にできる薄い膜を一重で引き揚げたものが京都の「湯葉」。日光の「ゆば」はこれを何重にも重ねて作り、「湯波」と書くそうです。修行僧のたんぱく源として、古くから作られてきました。



平野 寅次郎 拝